

# 2020年度 環境活動レポート

<対象期間：2020年10月 ～ 2021年9月>



株式会社 タムラ

2021年10月31日 発行

# 1. 組織の概要

- (1) 名称及び代表者名  
株式会社 タムラ  
代表取締役 田村 清孝

- (2) 事業所の所在地
- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| 本 社（登記住所）         | 千葉県鴨川市滑谷777番地         |
| マツダオートザム鴨川・修理部・総務 | 千葉県鴨川市滑谷68番地1         |
| マツダオートザム館山        | 千葉県館山市高井800番地1        |
| 重機土木部・重機修理部・钣金塗装部 | 千葉県鴨川市滑谷690番地2        |
| 自動車リサイクル部         | 千葉県鴨川市坂東370番地2        |
| 石油部               | 千葉県鴨川市滑谷763番地1, 769番地 |

- (3) 設立年・事業規模
- 設立年 1963年10月 1日  
 資本金 1,000万円  
 事業年度 10月～9月  
 売上総額 1,167 百万円 2020/10 ~ 2021/09

総称	部署および事業所	従業員数	延床面積	売上高 (百万円)
① MAZ 鴨川	マツダオートザム鴨川	3名	290.6㎡	339
	修理部	11名	400.9㎡	
	钣金塗装部	3名	238.9㎡	
② MAZ 館山	マツダオートザム館山	7名	419.0㎡	262
③ 重機土木事業部	重機・土木部	19名	3471.9㎡	438
	重機修理部	2名		
④ リサイクル事業部	自動車リサイクル部	5名	3,850.5㎡	59
⑤ 石油事業部	石油部	4名	626.1㎡	69

- (4) 事業内容
- ① マツダオートザム鴨川、② マツダオートザム館山  
自動車車検整備、一般修理、自動車钣金塗装、新車・中古車販売、保険代理店業務
  - ③ 重機土木事業部  
建設機械リース、建設機械点検修理、土木工事
  - ④ リサイクル事業部  
自動車解体業及び自動車解体部品販売、産業廃棄物収集運搬
  - ⑤ 石油事業部  
石油類販売、レンタカー

- (5) 事業詳細
- ③ 重機土木事業部  
 建設業許可 千葉県知事許可（般-2）第 34135 号  
 建設業の種類 土木工事業、とび・土工工事業  
 有効年月日 令和7年7月30日
- 業務実績（2020年度）
- |                      |       |
|----------------------|-------|
| 浄化槽設備工事およびシートパイル工事   | 40件   |
| シートパイル打設工事           | 40件   |
| クレーンおよびコンクリートポンプ車リース | 1670件 |

④ リサイクル事業部

1) 自動車リサイクル法にもとづく許可の内容

- (1) 解体業 許可番号：第 20123001327 号（千葉県知事）  
許可年月日：令和 3 年 7 月 14 日  
許可有効年月日：令和 8 年 4 月 17 日
- (2) 破碎業 許可番号：第 20124001327 号（千葉県知事）  
許可年月日：令和 3 年 7 月 14 日  
許可有効年月日：令和 8 年 4 月 17 日
- (3) 引取り業者登録番号：第 20121001327 号（千葉県知事）  
登録年月日：令和 3 年 4 月 18 日  
登録有効年月日：令和 8 年 4 月 17 日
- (4) フロン類回収業者登録番号：第 20122001327 号（千葉県知事）  
登録年月日：令和 3 年 4 月 18 日  
登録有効年月日：令和 8 年 4 月 17 日

2) 産業廃棄物収集運搬業 許可番号：第 01200221880 号（千葉県知事）

許可年月日：令和 3 年 5 月 21 日

許可に有効年月日：令和 8 年 5 月 20 日

<産業廃棄物の種類>

- ・ 廃プラスチック類（自動車等破碎物を除く）
- ・ 木くず
- ・ 金属くず（自動車等破碎物を除く）
- ・ ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（自動車等破碎物を除く）
- ・ がれき類

※ 本年度の実績なし

(6) 環境管理責任者及びエコアクション 2.1 推進委員

環境管理責任者

① マツダオートザム鴨川 推進委員	総務 小原 好一	TEL:04-7093-1121
② マツダオートザム館山 推進委員	営業 末吉 亮	TEL:0470-24-0721
③ 重機土木事業部 推進委員	課長 佐野仁昭	TEL:04-7093-1127
④ リサイクル事業部 推進委員	工場長 若菜昭宏	TEL:04-7093-1315
⑤ タムラ事業部	所長 笠井昭宏	TEL:04-7093-4295

## 2. エコアクション2 1 対象範囲

当社が取り組むエコアクション2 1 環境活動は、当社の全組織・全活動・全従業員を対象としています。

### 対象事務所※

マツダオートザム鴨川・修理部、マツダオートザム館山、  
重機土木部・重機修理部・钣金塗装部、自動車リサイクル部、石油部  
株式会社タムラ

### 事業活動

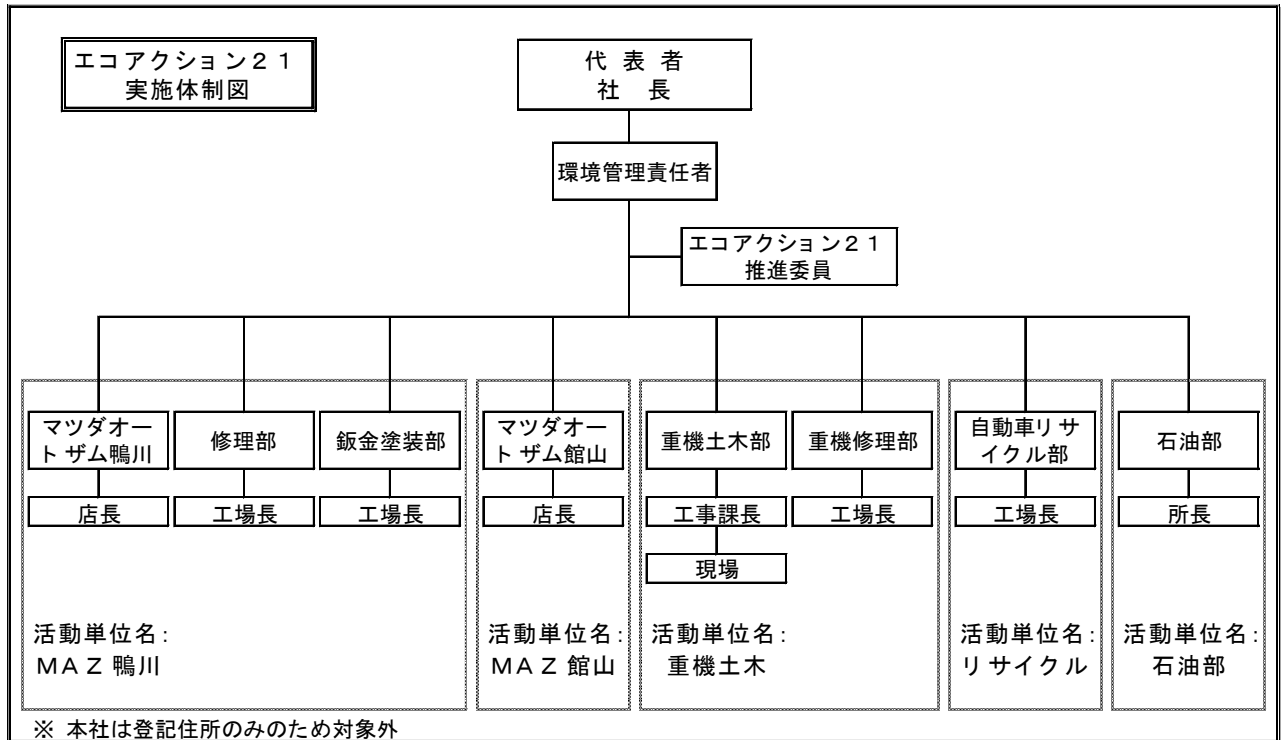
自動車車検整備、一般修理、自動車钣金塗装、新車・中古車販売、  
保険代理店業務、建設機械リース、建設機械点検修理、土木工事、  
自動車解体業及び自動車解体部品販売、石油類販売、レンタカー

※・・・本社（千葉県鴨川市滑谷777番地）は、登記住所の為対象外

※・・・産業廃棄物収集運搬は、実績が無い為対象外

### 3. エコアクション21実施体制

#### (1) エコアクション21実施体制図



#### (2) 役割・責任・権限

代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営に関する統括責任</li> <li>環境経営システムの実施に必要な『人、設備、費用、時間、技能、技術者』を準備</li> <li>環境管理責任者を任命</li> <li>環境方針の策定・見直し及び全従業員への周知</li> <li>環境目標・環境活動計画書を承認</li> <li>代表者による全体の評価と見直しを実施</li> <li>環境活動レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>環境関連法規等の取りまとめ表を承認</li> <li>環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>環境活動レポートの作成、公開</li> <li>環境活動の実績集計</li> <li>環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> </ul>
エコアクション21推進委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>環境目標・環境活動計画書原案の作成</li> <li>環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>環境目標・環境活動計画書を確認</li> <li>環境活動レポートの確認</li> </ul>
部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>自部門における環境方針の周知</li> <li>自部門の従業員に対する環境訓練の実施</li> <li>自部門に関連する環境活動計画の計画、実施及び達成状況の報告</li> <li>特定された項目の手順書作成及び運用管理</li> <li>自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成</li> <li>試行・訓練を実施、記録の作成</li> <li>自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動への参加</li> </ul>

# 株式会社 タムラ 環境経営方針

株式会社タムラは、全従業員が日々の企業活動である自動車販売、点検修理、建設重機リース、土木工事、自動車リサイクル、石油類販売、レンタカー、損害保険代理店業務等を行う中で、次世代に豊かな地球環境を引き継ぐことを目指し、自然との調和を図りながら地球環境の保護と豊かな社会づくりに貢献します。

地球環境保全を経営の重要課題と捉え、環境経営システムを構築運営し、全従業員一丸となり積極的に環境への取り組みを継続的に推進します。

1. 環境に関する法規制を遵守します。
2. 限りある資源を大切にし、また二酸化炭素排出量の削減のため節電や車両使用時にはエコ運転に努めます。
3. 循環型社会に向けて、廃棄物の削減・分別・再使用・再利用活動を推進します。
4. 水の使用量を把握し、上下・地下水の節水・排水量の削減に努めます。
5. 塗装や自動車整備に使用する化学物質の適正管理に努めます。
6. 低燃費・排出ガス車やリサイクル部品、エコオイルなど環境に配慮した製品の提供を推進します。
7. 工事現場にて、アイドリングストップに努めます。
8. 使用済み自動車リサイクル台数の向上に努めます。
9. 環境改善目標を定め、継続的な環境改善活動を実践します。
10. 全従業員に、この「環境経営方針」を周知徹底するとともに、環境活動レポートを作成し公表します。

制定日：2013年9月30日

改訂日：2020年10月1日

代表取締役社長

田村 清孝



## 5. 環境目標

### (1) 環境負荷の現状

(2020年10月～2021年9月)

項目	使用量	排出量	
二酸化炭素排出量		516,006.8 kg-co2	
電力	117,134.0 kWh	53,296.0 kg-co2	
化石燃料	ガソリン	24,490.3 <small>リットル</small>	56,817.5 kg-co2
	軽油	154,036.1 <small>リットル</small>	397,413.1 kg-co2
	灯油	3,182.2 <small>リットル</small>	7,924.4 kg-co2
	液化石油ガス(LPG)	205.6 kg	555.9 kg-co2
廃棄物総排出量		21.7 t	
一般廃棄物排出量(焼却)		3.6 t	
産業廃棄物量(再資源化)		18.1 t	
水の排出量		2,772.9 m <sup>3</sup>	
上水由来		1,077.0 m <sup>3</sup>	
地下水由来		1,695.9 m <sup>3</sup>	
化学物質使用量		284.2 kg	
トルエン		154.0 kg	
酢酸ブチル		76.5 kg	
キシレン		38.4 kg	
エチルベンゼン		15.4 kg	

※産業廃棄物については、有価にて処理をしている為、現状実績のみ記載します。

※購入電力の排出係数については、国が公表する2018年度の東京電力エナジーパートナー株式会社の調整後排出係数0.455 kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用する。

(2) 環境目標 (全体)

項目		単位	基準年実績	目標		
				2020年度	2021年度	2022年度
二酸化炭素排出量		kg-CO <sub>2</sub>	566,267	560,604	554,942	549,279
		基準年比 (2019年度)		99%	98%	97%
電力		kWh	123,000	121,770	120,540	119,310
		基準年比 (2019年度)		99%	98%	97%
化石燃料	ガソリン	ℓ	23,310	23,077	22,844	22,611
		基準年比 (2019年度)		99%	98%	97%
	軽油	ℓ	174,605	172,859	171,113	169,367
		基準年比 (2019年度)		99%	98%	97%
	灯油	ℓ	2,306	2,283	2,260	2,237
		基準年比 (2019年度)		99%	98%	97%
廃棄物総排出量						
一般廃棄物量		kg	3,652	3,615	3,579	3,542
		基準年比 (2019年度)		99%	98%	97%
産業廃棄物量(再資源化率の向上)		%	100	100%	100%	100%
		基準年比 (2019年度)		100%	100%	100%
水の排出量		m <sup>3</sup>	2,861	2,832	2,804	2,775
		基準年比 (2019年度)		99%	98%	97%
本業に係る環境配慮						
MAZ鴨川	化学物質使用量の管理	kg	280	-	-	-
		基準年比 (2019年度)		-	-	-
	低燃費・低排出ガス車登録比率向上	%	82	83%以上	84%以上	85%以上
		基準年比 (2019年度)		101%	102%	104%
MAZ館山	低燃費・低排出ガス車登録比率向上	%	86	87%以上	88%以上	89%以上
		基準年比 (2019年度)		101%	102%	103%
重機土木	建設機械の自主点検整備実施率の向上	%	100	100%	100%	100%
		基準年比 (2019年度)		維持	維持	維持
リサイクル	解体のための入庫台数の増加促進	台	909	918	927	936
		基準年比 (2019年度)		101%	102%	103%
石油部	スタンドヤードのゴミ分別の実施率向上	%	100	100%	100%	100%
		基準年比 (2019年度)		維持	維持	維持
軽油原単位管理						
重機土木	【車両】走行距離による燃費測定	km/ℓ	1.345	1.358	1.372	1.385
		基準年比 (2019年度)		101%	102%	103%
	【重機】稼働時間による燃費測定	hr/ℓ	0.113	0.114	0.115	0.116
		基準年比 (2019年度)		101%	102%	103%
リサイクル	入庫台数及び解体車両台数による燃費	台数/kℓ	109.9	111.0	112.1	113.2
		基準年比 (2019年度)		101%	102%	103%
	【車両】走行距離による燃費測定	km/kℓ	12,546	12,672	12,797	12,923
		基準年比 (2019年度)		101%	102%	103%
【重機】稼働時間による燃費測定	hr/kℓ	48.4	48.9	49.4	49.9	
	基準年比 (2019年度)		101%	102%	103%	
水原単位管理						
石油部	洗車機使用回数による水使用量	回数/m <sup>3</sup>	2.04	2.06	2.08	2.10
		基準年比 (2019年度)		101%	102%	103%

※化学物質の排出量、移動量は適切に管理していることを、定期的に確認する。

※購入電力の排出係数については、国が公表する2018年度の東京電力エナジーパートナー株式会社の調整後排出係数 0.455 kg-CO<sub>2</sub>/kWh を使用する。



## 6.環境活動計画

項 目	活動手段及び方法		
二酸化炭素排出量の削減			
電力使用量の削減	MAZ 鴨川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空調温度を適切な温度設定にする。</li> <li>・ 照明、パソコン等の機器類の電源管理をする。</li> <li>・ 空調フィルターの定期清掃をする。</li> </ul>	
	MAZ 館山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 店舗照明のゾーン、時間帯管理</li> <li>・ エアコン温度設定の徹底</li> </ul>	
	重機土木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不要な電気のスイッチは切る。</li> <li>・ パソコンの電源管理</li> <li>・ コンプレッサーの電源管理</li> </ul>	
	リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パソコン、コピー機等のOA機器を省電力設定にする。</li> <li>・ 夏季における軽装、冬季における重ね着の工夫。</li> <li>・ 空気圧縮機の圧力。</li> <li>・ 事務室、工事等の照明、不使用時の消灯。</li> </ul>	
	石油部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 店舗照明の時間帯管理</li> <li>・ エアコン温度の設定 夏季28℃より</li> <li>・ 必要以上の電源を切る</li> </ul>	
	化石燃料の削減	MAZ 鴨川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アイドリングストップの実施</li> <li>・ エコドライブの徹底(法定速度の遵守及び空ぶかしの禁止)</li> </ul>
		MAZ 館山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社用時エコドライブ実施</li> <li>・ 代車使用(お客様)時の依頼(エコドライブ、 返却時満タン返し)</li> </ul>
		重機土木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現場移動時のエコ運転</li> <li>・ 揚重作業中のアクセルワークの注意</li> </ul>
		リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アイドリングストップ等エコドライブの工夫</li> <li>・ 使用済み車引取時の効率的ルート 選択と段取り</li> </ul>
		石油部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社用時のエコドライブ実施</li> <li>・ 配達時、給油以外はエンジンを切る。</li> </ul>
廃棄物総排出量			
一般廃棄物量	MAZ 鴨川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紙類(機密文書・個人情報等)の適正処理の徹底。</li> <li>・ 紙の使用量の抑制</li> <li>・ 書類の簡素化・ペーパーレス化の推進</li> <li>・ 裏紙使用・両面印刷・両面コピーの推進</li> </ul>	
	MAZ 館山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紙類の再利用(裏紙の使用/段ボールの再利用)</li> <li>・ 一般ゴミの分別、圧縮廃棄</li> <li>・ 事務処理のペーパーレス推進</li> </ul>	
	重機土木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごみの分別</li> <li>・ コピー用紙の裏紙活用</li> <li>・ ごみの持ち込みをしない。</li> </ul>	
	リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 段ボールの再利用</li> <li>・ 他事業部の段ボールを梱包材として再利用する。</li> </ul>	
	石油部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紙類の再利用(裏紙の使用/段ボールの再利用)</li> <li>・ 一般ゴミの分別、圧縮廃棄</li> <li>・ 事務処理のペーパーレス推進</li> </ul>	
産業廃棄物量(再資源化率の向上)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業廃棄物(廃油等)を中間処理業者へ売却し産業廃棄物の再資源化に努める。</li> </ul>	
水の排出量	全事業所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地下水の使用量を把握する。</li> <li>・ 手元ノズル等を使用しこまめに節水する。</li> <li>・ 「節水ステッカー」を表示し注意を促す。</li> </ul>	

本業に係る環境配慮			
MAZ鴨川 MAZ館山	化学物質使用量の管理		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境に優しい塗料の切り替え検討。</li> <li>・ データ把握。</li> </ul>
	低燃費・低排出ガス車登録比率向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 低燃費、低排出ガス車の販売増に努める。 (SKYACTIV、アイドリングストップ車の販売比率を高める。)</li> <li>・ 環境配慮型自動車保険の提案に努める。</li> </ul>
重機土木	建設機械の自主点検整備実施率の向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画的に建設機械の自主点検を実施する。</li> <li>・ 日常点検の実施。</li> </ul>
リサイクル	解体のための入庫台数の増加促進		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1台でも多くの解体車両を増加させるための営業に努める。</li> </ul>
石油部	スタンドヤードのゴミ分別の実施率向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 徹底したゴミ分別の実施。</li> </ul>
軽油使用量削減(軽油原単位管理)			
重機土木	【車両】走行距離による燃費測定		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ラフタークレーン及び運搬工事車両等の走行距離による燃費を把握し、エコドライブの徹底に努める。</li> </ul>
	【重機】稼働時間による燃費測定		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ラフタークレーン及び建設機械等の稼働時間による燃費を把握し、優しいアクセルワークに努める。</li> </ul>
リサイクル	入庫台数及び解体車両台数による燃費		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 効率のよい車両引取ルート選定により燃費向上に努める。</li> </ul>
	【車両】走行距離による燃費測定		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積載車(解体車両運搬車)の走行距離による燃費を把握し、エコドライブの徹底に努める。</li> </ul>
	【重機】稼働時間による燃費測定		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 解体用重機等の稼働時間による燃費を把握し、優しいアクセルワークに努める。</li> </ul>
水使用量削減(水原単位管理)			
石油部	洗車機使用回数による水使用量		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水使用量を洗車機使用回数により適正な管理を行い節水に努める。</li> </ul>

※各事業部から発生する産業廃棄物のうち廃油・廃LLCは車両の点検整備結果として発生するため、削減目標と計画の策定は行わず適正保管と適正処理業者へ排出する。

※お客さま車両の洗車等に使用する地下水の使用量削減については、2013年11月設置の水量計で現状を把握する。

※一般廃棄物の排出量については、2014年8月から秤を使用して現状を把握する。

※再生可能エネルギーの太陽光発電をMAZ館山に設置し、東京電力に売電している。

※低燃費・低排出ガス車登録比率は、車両販売数に対するアイドリングストップ・SKYACTIV搭載車の比率をいう。

## 7. 環境活動計画の取組結果とその評価

(2020年10月～2021年9月)

集計単位	二酸化炭素 排出量 kg-CO2	電力 kWh	ガソリン ℓ	軽油 ℓ	灯油 ℓ	水の 使用量 m <sup>3</sup>	廃棄物排出量		
							一般 kg	産廃再資源化 %	
全体	基準	566,267	123,000	23,310	174,605	2,306	2,861	3,652	100%
	目標	560,604	121,770	23,077	172,859	2,283	2,833	3,615	100%
	実績	515,450	117,134	24,490	154,036	3,182	2,773	3,557	100%
	増減率	92%	96%	106%	89%	139%	98%	98%	100%
	評価	○	○	×	○	×	○	○	○
MAZ 鴨川	基準	50,274	47,183	7,273	3,162	1,516	548	1,374	
	目標	49,772	46,711	7,200	3,130	1,501	542	1,360	
	実績	53,336	44,020	7,563	3,901	2,451	585	1,195	
	増減率	107%	94%	105%	125%	163%	108%	88%	
	評価	×	○	×	×	×	×	○	
MAZ 館山	基準	17,288	18,661	2,455	1,037	171	661	603	
	目標	17,115	18,474	2,430	1,027	169	654	597	
	実績	14,959	19,163	1,546	868	256	694	575	
	増減率	87%	104%	64%	85%	151%	106%	96%	
	評価	○	×	○	○	×	×	○	
重機 土木	基準	441,045	31,847	12,509	154,083	0	464	1,482	
	目標	436,635	31,529	12,384	152,542	0	459	1,467	
	実績	393,095	30,297	14,368	134,298	0	490	1,617	
	増減率	90%	96%	116%	88%	-	107%	110%	
	評価	○	○	×	○	-	×	×	
リ サイ クル	基準	45,791	7,860	0	16,289	76	69	35	
	目標	45,333	7,781	0	16,126	75	68	35	
	実績	42,049	7,117	41	14,944	90	67	29	
	増減率	93%	91%	-	93%	120%	99%	83%	
	評価	○	○	-	○	×	○	○	
石 油 部	基準	11,868	17,449	1,073	34	543	1,120	158	
	目標	11,750	17,275	1,062	34	538	1,108	156	
	実績	10,616	16,537	972	25	385	937	141	
	増減率	90%	96%	92%	74%	72%	85%	90%	
	評価	○	○	○	○	○	○	○	

会社全体での実績／判定

### (1) 全体(組織全体)

2019年度の実績を基準とし、1年間に1%の削減を目標に3年間の中期目標を策定いたしました。本年度で8年目の環境活動となりました。

取組結果ですが、組織全体で二酸化炭素排出量、電気使用量、軽油使用量、水使用量、一般廃棄物の削減目標が達成となり、ほぼ目標達成したと感じられます。しかし、ガソリン使用量の鴨川及び重機部での仕事量増加に伴い未達成。また、灯油使用量に関しては電気使用量を削減している分、フローア及び室内の換気により全体的に増加しており未達成の要因と考えられます。このコロナウイルスの影響の中、社員一同、各種の項目について削減に努めて頂き感謝しております。

今後も、コロナウイルスの影響もあると考えられますが、各事業所にて換気及び健康管理も含め、目標達成できるよう来年度も引き続き環境負荷の削減に努めて頂きたいと思っております。

### (2) MAZ鴨川

今年度は、昨年度よりは目標達成したと感じられます。しかし、達成できていない「自動車燃料の削減」に関して、ガソリン及び軽油使用量では、ロードサービスによる増加と考えられます。また、灯油量の増加に関しては、エアコンを止めていた為コロナ感染症の拡大に伴い換気をしながらのフローア及び各部屋の暖房稼働による増加と考えられます。それ以外に、钣金工場での仕事量増加によるものもです。こちらに関しては、コロナウイルスの影響及び天災等により増加又は減少する為、目標値に対し難しいところであると考えられる。水の使用量に関しては、漏水が原因と考えられます。こちらに関して、随時破損箇所があり次第、修繕をおこなって参ります。来年度も引き続き節約を確実に実施し、各種削減への取り組みを徹底して参ります。

### (3) MAZ館山

今年度は、昨年度と比較すると目標未達成が増えたと思われ。電気量及び灯油量に関しては、コロナウイルスの影響もあり常にフローアの換気もおこなっている為増加しております。また、水の使用量は洗車機利用回数の増加によるものと考えられます。

今後は、新型コロナウイルスとの共存時代に突入していく為、冷暖房を使用しながら尚且つ換気をしなければなりません。その分出来る節約は確実に実施し、これからも社員全員で知恵を絞って活動に取り組んでいきたいと思っております。

(4) 重機・土木部

今年度は昨年度に比べ、目標未達成が増えたと思われます。ガソリン使用量に関しては、仕事量増加に伴い社用車の使用が増加しております。水使用量に関しても、仕事量増加に伴い重機等の洗車等で使用量増加。また、一般廃棄物に関しても、钣金工場での仕事量増加に伴い増加しております。今後も、遠方作業及び仕事量の増加により増減の可能性が考えられます。引き続き「エコ運転、丁寧なアクセルワーク」を心掛けるよう社員一同徹底をして参りたいと思います。

(5) リサイクル部

今年度は、全体的には目標達成できたと思います。しかし、灯油使用量に関しては、コロナウイルスの影響もあり常に事務所内を換気していた事もあり思った以上に増加したと考えられます。今後も、引き続き解体作業等の入庫台数の増加促進、「エコ運転・丁寧なアクセルワーク」を心掛けるよう更なる削減を徹底していききたいと思います。

(6) 石油部

今年度は、全ての項目に対し目標達成となりました。来年度も、引き続き「エコ運転・丁寧なアクセルワーク・節水」を心掛けていききたいと思います。また、コロナウイルスの影響もありますので室内の換気及び体調管理も徹底していききたいと思います。

《本業に係る環境配慮》

集計単位	本業に係る環境配慮	単位	基準年実績	年度目標	実績	評価
MAZ鴨川	化学物質使用量の管理	kg	280	データ把握	284	○
		基準年比		-	-	
MAZ館山	低燃費・排出ガス車登録比率の向上	%	82%	83%	75%	×
		基準年比		101%	90%	
MAZ館山	低燃費・排出ガス車登録比率の向上	%	86%	87%	81%	×
		基準年比		101%	93%	
重機土木	建設機械の自主点検整備の実施率向上	%	100%	100%	100%	○
		基準年比		100%	100%	
リサイクル	解体のための入庫台数の増加促進	台	1,182	1194	631	×
		基準年比		101%	53%	
石油部	スタンドヤードのゴミ分別の実績率向上	%	100%	100%	100%	○
		基準年比		100%	100%	

(1) MAZ鴨川

今年度「化学物質使用量の管理」に関して、基準年度実績を基にデータ把握をし、状況を確認しております。今回は、天災被害等もなく通常での作業であり車両の増加も無かったと考えられます。また、「低燃費・排出ガス車両」に関しては、目標未達成となっており、引き続き販売促進に努めていきます。今後も、引き続き削減をおこなっていききたいと思います。

(2) MAZ館山

今年度に関しては、昨年度に比べ販売台数が減少となっており、その為目標も未達成との結果となっております。コロナウイルスの影響もあり、フェア等お客様へのご来店も控えさせて頂いていることもあると考えられます。今後も、コロナウイルスの影響により車両販売の比率の上下があることを認識し、引き続き低燃費車両の販売促進に繋げていききたいと思います。

(3) 重機・土木部

今年度に関して、建設機械の自主点検整備は目標達成となりました。来年度も、点検及び修理も含め引き続き自主点検整備をおこなっていききたいと思います。

(4) リサイクル部

今年度に関しては、昨年度と比較するとかなりの減少台数となっており目標未達成となりました。工場長が営業活動をおこなっておりますが、コロナウイルスの影響もあり思った以上に営業活動が厳しい状態であります。来年度も、コロナウイルスの影響も踏まえ、引き続き入庫台数を増やす為、工場長だけではなく社員全員で営業等も含めおこなっていききたいと思います。

(5) 石油部

今年度に関して、スタンドヤードのゴミ分別は目標達成となりました。来年度も、引き続きゴミの分別の徹底を社員全員でおこなっていききたいと思います。

《軽油原単位管理》

集計単位	軽油原単位管理	単位	基準年実績	年度目標	実績	評価
重機土木	【車両】走行距離による燃費測定	km/ℓ	1.345	1.358	1.575	○
		基準年比		101%	117%	
	【重機】稼働時間による燃費測定	hr/ℓ	0.113	0.114	0.141	○
		基準年比		101%	125%	
リサイクル	入庫台数及び解体車両台数による燃費	台数/kℓ	104.1	105.1	96.1	×
		基準年比		101%	92%	
	【車両】走行距離による燃費測定	km/kℓ	12,546	12,671	14,596	○
		基準年比		101%	116%	
	【重機】稼働時間による燃費測定	hr/kℓ	48.4	48.9	64.9	○
		基準年比		101%	134%	

(1) 重機・土木部

今年度は、「車両」走行距離及び「重機」稼働時間による燃費測定による燃費測定に関しては目標達成となりました。日々のエコドライブ・アイドリングストップ・作業中のアクセルワークが結果として大きいのではないかと考えられます。来年度も、引き続きアクセルワーク等を含め目標達成できるよう努めていきたいと思ひます。

(2) リサイクル部

今年度は、入庫台数及び解体車両台数による燃費に関して、目標未達成となりました。要因としては、解体車両の経年劣化による燃費の増加が考えられます。入庫台数が減少しているのにも関わらず燃費の増加を踏まえ、新規車両の検討をおこなっていきます。「車両」走行距離及び「重機」稼働時間による燃費測定に関しては、目標達成となりました。普段からアイドリングストップを心掛けていることによる結果と考えております。来年度に関しては、新規車両の見直しを検討しながら、引き続き燃費の削減に心掛けていきたいと思ひます。

《水原単位管理》

集計単位	水原単位管理	単位	基準年実績	年度目標	実績	評価
石油部	洗車機使用回数による水使用量	回数/km <sup>3</sup>	2.04	2.06	2.47	○
		基準年比		101%	121%	

(1) 石油部

今年度に関して、洗車機使用回数での水使用量の原単位管理をおこなう事により、透明化でき水使用量との比較が計れ良かったと思ひます。また、目標値に対しても達成となっていることから来年度も引き続き数値管理を徹底していきたくと思ひます。

## 8. 次年度の取組

更なる環境負荷の削減を目指し、以下の取組みを重点的に行う。

- ・エコ運転、丁寧なアクセルワークの徹底（自動車燃料の削減）
- ・節水の徹底（漏水調査及び修繕）

### 《 次年度環境目標 》

項目		単位	基準年実績	目標		
				2020年度	2021年度	2022年度
二酸化炭素排出量		kg-CO <sub>2</sub>	566,267	560,604	554,942	549,279
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
電力		kWh	123,000	121,770	120,540	119,310
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
化石燃料	ガソリン	ℓ	23,310	23,077	22,844	22,611
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
	軽油	ℓ	174,605	172,859	171,113	169,367
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
	灯油	ℓ	2,306	2,283	2,260	2,237
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
廃棄物総排出量						
一般廃棄物量		kg	3,652	3,615	3,579	3,542
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
産業廃棄物量(再資源化率の向上)		%	100	100%	100%	100%
		基準年比	(2019年度)	100%	100%	100%
水の排出量		m <sup>3</sup>	2,861	2,832	2,804	2,775
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
本業に係る環境配慮						
MAZ鴨川	化学物質使用量の管理	kg	280	-	-	-
		基準年比	(2019年度)	-	-	-
MAZ鴨川	低燃費・低排出ガス車登録比率向上	%	82	83%以上	84%以上	85%以上
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	104%
MAZ館山	低燃費・低排出ガス車登録比率向上	%	86	87%以上	88%以上	89%以上
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
重機土木	建設機械の自主点検整備実施率の向上	%	100	100%	100%	100%
		基準年比	(2019年度)	維持	維持	維持
リサイクル	解体のための入庫台数の増加促進	台	909	918	927	936
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
石油部	スタンダードのゴミ分別の実施率向上	%	100	100%	100%	100%
		基準年比	(2019年度)	維持	維持	維持
軽油原単位管理						
重機土木	【車両】走行距離による燃費測定	km/ℓ	1.345	1.358	1.372	1.385
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
重機土木	【重機】稼働時間による燃費測定	hr/ℓ	0.113	0.114	0.115	0.116
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
リサイクル	入庫台数及び解体車両台数による燃費	台数/kℓ	109.9	111.0	112.1	113.2
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
	【車両】走行距離による燃費測定	km/kℓ	12,546	12,672	12,797	12,923
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
	【重機】稼働時間による燃費測定	hr/kℓ	48.4	48.9	49.4	49.9
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
水原単位管理						
石油部	洗車機使用回数による水使用量	回数/m <sup>2</sup>	2.04	2.06	2.08	2.10
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%

※購入電力の排出係数については、国が公表する2018年度の東京電力エナジーパートナー株式会社の調整後排出係数0.455 kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用する。(環境省・経済産業省公表 R2.9.15)

## 9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反訴訟の有無

### (1) 環境関連法規等の遵守状況の評価

法規制等の名称	主な要求事項	担当部署	評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 ( 廃棄物処理法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般廃棄物収集業者の許可証確認</li> <li>産廃収集運搬・処理業者との契約、許可証確認</li> <li>マニフェストの交付、管理</li> <li>産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出</li> <li>自社による運搬時の表示、書類携行</li> </ul>	全事業場	○
使用済み自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	使用済み自動車の引取・フロン類回収・解体・破砕業者登録及び許可／登録／更新	リサイクル部	○
	再資源化預託金(自動車リサイクル料金)の預託有無の確認と、預託金の徴収	MAZ 鴨川・MAZ 館山・リサイクル部	○
	各工程移動時、移動報告の実施(電子マニフェストの管理)	リサイクル部	○
道路運送車両法	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路運送車両の保安基準</li> <li>道路運送車両の点検及び整備</li> <li>道路運転車両の検査等</li> </ul>	MAZ 鴨川・MAZ 館山・重機土木部	○
自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量削減等に関する特別措置法 (自動車Ox・PM法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>規制対象地域内の適合車による運行</li> <li>規制対象特定地域への対象車両通行禁止</li> <li>対象自動車を使用する事業者による計画の作成、定期の報告</li> <li>周辺地域内自動車を使用する事業者による計画の作成、定期の報告</li> </ul>	全事業場	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 (PRT法)	第1種指定化学物質の排出量、移動量の記録 年間総排出量、移動量が100kg以上あれば報告	MAZ 鴨川・MAZ 館山・重機土木部	○
浄化槽法	公共用水域等の水質保全等の観点から、浄化槽の設置、保守点検、清掃を行う。	全事業場	○
騒音規制法	敷地境界での騒音レベルの遵守	リサイクル部	○
振動規制法	敷地境界での振動レベルの遵守	リサイクル部	○
水質汚濁防止法	排水濃度の測定・記録 事故時の措置届出	全事業場	○
大気汚染防止法	低排出ガス車の運用と販売	全事業場	○
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律 (オフロード法)	基準適合特定特殊自動車使用	重機土木部・リサイクル部	○
特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律 (フロン回収破壊法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>第二種特種製品からのフロン類回収引取、回収業者の登録／更新</li> <li>回収設備機器の保全</li> <li>回収実績記録の報告</li> <li>回収フロン類の破壊業者への引き渡し</li> </ul>	リサイクル部	○
消防法	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険物保管の指定数量以上の許可申請</li> <li>危険物保管の指定数量以上の危険物取扱者の届出</li> </ul>	全事業場	○

### (2) 違反・訴訟の有無

過去3年間以上、環境関連法規等の違反はなく、訴訟および関係機関からの指摘も受けていない。

### 《 環境活動の評価 》

エコアクション21を取得し、早や8年が過ぎました。

現在では、活動方法や取り組み方が社員一同に浸透し、一人一人の意識改革により結果が反映されてきており、今年度に関してもほぼ目標達成していると思われます。

取り組みとしては、昨年度の実績結果を基準値とし目標値の変更をおこなった事により、各項目が削減となり目標達成となりました。昨年度より石油部での水の使用量を明確化する為、洗車機使用回数での水使用量の原単位管理をおこなった事により明確な水の使用量が計れるようになり良かったと考えられます。しかし、「ガソリンの使用量及び灯油の使用量」に関しては、増加となっており未達成となっております。ガソリン使用量に関しては、仕事量の増加に比例し使用量も増加したと考えられます。また、灯油の使用量に関しては、エアコン使用量を削減（電気量）した結果、その分灯油での使用量が増加しており、要因としてはコロナウイルスの影響によりフロアー及び室内での換気が関連していると考えられます。

まために、各部署にて仕事量の増減がコロナウイルスの影響により厳しい状態ではありますが、環境活動への取り組み意識を持ち、引き続き勢力的な環境活動を行っていきたいと思います。

### 《 今後の対応 》

今後の対応と致しましては、2019年の実績結果を基準値とした目標設定をおこなっておりますので、来年度も今年度未達成となっている「ガソリンの使用量及び灯油の使用量」の削減に努めて頂きたいと思います。

また、コロナウイルスの感染対策も含め、フロアー及び室内の換気及び社員一同の健康管理も日々各部署にて徹底して参ります。

最後になりますが、社員一同これまで培ってきたものを土台とし、引き続き環境活動及び社会貢献の実施に取組み、環境負荷低減に貢献していきたいと思います。



## 11. 環境保全活動のご紹介

### 《 緑のカーテン 》

夏場、「緑のカーテン」を設置し西日による室温上昇を抑えて、空調による電気使用量を抑制。

#### リサイクル部



### 《 清掃活動 》

会社周辺の清掃活動（地域のゴミゼロ運動に協力参加）に全部署で参加しています。

#### 重機部・石油部



マツダオートザム鴨川・館山店

